

を作ってくれた。実行力がすごいからね。今じゃあ、鈴鹿市の小学校で相当普及してきた。カルタ大会も開かれているらしい。

ついでに信綱のことを少し……。これまで、信綱を大事にしてくれて、信綱が忘れ去られないように活動してくれた人たちが大勢います。その一人が前川佐美雄さんです。戦後しばらく、信綱の評判が悪かった時期があった。昭和二十年代、戦争に協力したという事で。そんな時に知らんぷりをした人もすいぶんいました。前川佐美雄はどんなところでも「佐佐木信綱門下」とかならず自己紹介していた。前川佐美雄と五島美代子。あの二人はどんなときにも「信綱門下」と名乗って、信綱を大事にしてくれた。

加古 逆に言うと、信綱に教えてもらったことを隠していた人たちがいたということですか。

幸綱 隠すというほどではないけども、書かなくていい場合は書かないとか。そんな時期があったんです。今では考えられないかもしれないけれど、戦犯みたいに言われたわけですよ。もちろん信綱だけじゃな

く、きつい思いをした歌人は大勢いたわけだけ。

黒岩 軍歌を作ったりしたわけだし。

幸綱 大政翼賛会とか文学報国会とか、そういうのにみな加入していたわけだから。斎藤茂吉が「自分も戦犯になるんじゃないか」と脅えていたのは有名な話ですね。昭和二十年代前半はそういう時代だったが、そういうときも前川さんと五島さんはゆるがなかった。

加古 そういう時に人は問われますね。

▽前川佐美雄と坪野哲久の不思議な関係

幸綱 さっき言ったように、「心の花インタビュー」でお宅に伺ったのが前川佐美雄さんと個人的に会った最初だったけど、その後も、前川さんにはよく付き合っていた。僕が大学院で『万葉集』をやったこともあって、春休みや夏休みには奈良へよく出かけて行ったりしていました。「心の花」関係では森本秀子が奈良県の御所（こせ）に住んでおられた。内科医で代々の大きなお宅だった。何度かそのお宅に泊めてもらったりしました。関東人だから奈

良の土地勘がない。何度も行かないと『万葉集』に出てくる奈良の地名や地理が分からないんだよ。

前川さんとはいろいろな場所で一緒に酒を飲んでもらい、話をうかがった。漢詩が好きの方だった。東洋大学で漢詩を勉強したんだね。東洋大学は漢文系が強い大学で、坪野哲久さんも東洋大学出身のはずだね。前川さんは酔っぱらうと暗誦している漢詩をうたいたくなるんだ。「長恨歌」は最初から最後までだと七、八分はかかる。それを最初から最後まで、いくら酔っぱらっても言えるんだね。「お前、聴いてれ」って（笑）。それで、聞かされたことがあった。二人で飲んでるんだから聞かないわけにゆかない。最初から最後まで。

前川さんは世間では「奈良の天皇」と言われていて、奈良のお寺さんに顔が効いた。そういう世界で広く知られて偉い人だったらしい。一回、大阪まで行って、河豚をごちそうになったことがあった。そのとき、隣の部屋でワイワイ騒いでる人たちがいた。店の人に聞くと東大寺関係の人だった。すると前川さんが店の人に「だれ